磐城春秋

第二十三號

發行所
磐城春秋社
平市田町八六
電話二三五
編輯兼印刷人
高木稲水
印刷所
平活版所
（毎週土曜發行）

【定價一部四十錢】

平警防團問題解決

―語る傍聽者の眞實性―

平市警防團問題は月餘に亙つて各方面にいろ〳〵の波紋を卷き起し調査委員會、顧問級の調停委員會の暗躍明躍等くすぶつてゐたが十七日の市會で提案者の馬目武之助氏が「食糧問題が重大化してゐる折柄、是以上世間を騒がしては申譯ないから調査委員の報告が自分の提案事實を認めてゐる以上は潔く撤回する。」と決議案を撤回して一應解決した當日の市會は午前十時開會の豫定の所内部工作に手間どつて十一時五十分漸く開會、追加更正豫算案、市參事會員の改選後、一時休憩再會の上堀喜一調査委員長から「前後五回に亙つて愼重に調査の結果當日出動した警防團のポンプの中にはバッテリーに充塡のなかつたものもあつたし、完全に機能を發揮できなかつたものもある。しかしこれを理由に常備消防や警防團長の責任をとやかくいふのはおだやかでない。市長が大事のすぐあとで警防團の人達に一通りこのことを注意してをるのだから市會の決議として出すことは注意が二重になると思ふ」といふ意味の文語体の報告書を讀みあげ、それが終ると同時に馬目武之助氏が發言を求めて前のやうな理由を述べて決議案をあつさり撤回してしまつた。警防團關係民主人民聯盟等の人々が三十餘名近くもつめかけ相當緊張した空氣をただよはしてゐたが、金古議員から「バッテリー」問題について質問があつたばかりであれ程世間を騒がした問題にも拘らず他に突き進んだ質問もなく十二時四十五分あつけなく閉會となつた。なほ當日の缺席議員は佐藤幸太郎、石山一治、佐藤源吉、松本德一、小野金太郎の五議員である

これに對し當日の傍聽者の中には「報告書は提案者のいつたやうな事實があつたかないかを報告すればそれでよいのだ。責任があるのないのといふやうな自分の意見を加へる必要はないではないか」と述べてゐるものと「矢張昔の型の通り市會にかける時はもうお膳立がきまつてゐる。明々白々市民の前に事實をぶちまけて話し合ひ、好い惡いを判斷させるべきである」と述べてゐるものとがある

警防團のために辯ずるものは「あの報告書は提案者本位の一方的判決を下してゐる。あれを見るといかにも警防團や團長に責任はあるのだが此際は敢へて問題にしないといふ風な印象を世人に與へる。當日出動したガソリンポンプは二臺でその中の一臺、第二分團のがバッテリーが充分でなかつたので全然充塡してなかつたのではない。常備と違つて戰時中は兎に角現在では平素は無人同樣なのだから責めるのは無理だ。自動車ポンプは五臺の中一臺がエンジンに故障があつたのだが器械のことだから万全を期しても故障は時としてあり得る。それを以て常備消防全員が平素怠慢であり、消火に不充分であつたやうな印象を與へるやうな報告書を出すことはどうかと思ふ。有罪の判決を與へておいて案を撤回したからこれで全部解消しになるといふ風な態度は宜しくない。「妥當でなければ一舉兩得であるといふのであるが、一方組合側では理想論としては好いが、現在は醫療器具の購入資金も容易でないし、開業醫の協力といふ点も考へねばならず、權威者を招いて來なければ結局成功しないと述べて實現不可能を說いてゐる。とにかく現在のインフレにあへぐ給料生活者にとつて醫療費は容易ならぬ負擔なので保險證の利用者は增加の一路を辿つてゐる四月以來五圓二十錢の初診料は全額患者負擔となり、藥價は一圓三十錢、靜脈注射六圓五十錢等にそれ〴〵增額その半額は組合負擔となつてをる、なほ保險證で一番多く扱つてゐるのは大森、萩原兩醫である

インフレ餘波

刻々增大するインフレと深刻な食糧難に一般大衆はあらゆる面に身動もとれなくなつてゐる。曰く醫療費を拂へない、曰く歸還はしたが住む家がない等々この深刻なる世相を如何にすべきか

特に醫療費と外地引揚者救濟問題を取り上げ斯くすべきであるとその眞相を衝く

二問題對策

引揚者救濟對策

形式主義を排し
實的救濟せよ

現在平には海外引揚同胞が二三七世帶約六百名、復員軍人が陸軍六一八名、海軍一二六名引きあげて來てをり、今後ぞく〳〵かうした引揚同胞や復員軍人が增加してゆく傾向である。ところで生産工場ではインフレの結果人件費が高くなつてゐるので新らしく採用することをさけてをり、失業者は增加する一方なのでこれらの人達も內地へ歸つた喜びは束の間で迫つてくる生活難におびやかされてをるといふ狀況である。勤勞署や市社會課ではそれ〴〵手段をつくして就職の世話や生活に困る人の救濟をやつてゐるが、政府からも相當の金が割當られてゐる事であるからなるべくそれを有効に費してほしいと要望されてをる。それからお役所式の型通りでなく進んで仕事を見つけてやり、場合によつてはいろ〳〵の手職をおぼえさせるための講習會を催したり、その製品の販賣や輸送を考へてやつたりすべきである。一時的の救濟は何の役にも立たぬ。援護週間の美しい標語やポスターやお話だけでは氣の毒な引揚者や復員軍人は救はれぬ

醫療費對策

國民健康診療所を
開設せよ

醫者の料金が高くなつて來たので醫者の一部や市民の一部では國民健康保險組合專門の診療所を開設して、この際組合の機能を充分に發揮すべしといふ議が持ち上つてゐる。開設論者は戰災者や引揚者中開業できないでゐる醫者を利用して開けば一舉兩得であるといふのであるが、一方組合側では理想論としては好いが、現在は醫療器具の購入資金も容易でないし、開業醫の協力といふ点も考へねばならず、權威者を招いて來なければ結局成功しないと述べて實現不可能を說いてゐる。とにかく現在のインフレにあへぐ給料生活者にとつて醫療費は容易ならぬ負擔なので保險證の利用者は增加の一路を辿つてゐる四月以來五圓二十錢の初診料は全額患者負擔となり、藥價は一圓三十錢、靜脈注射六圓五十錢等にそれ〴〵增額その半額は組合負擔となつてをる、なほ保險證で一番多く扱つてゐるのは大森、萩原兩醫である

▽諸會合一束△

☆六月二十三日（日）午前十時より午後四時迄常磐礦山勞働組合聯合會第五回擴大執行委員會

☆六月二十五日（火）午後一時より午後四時迄市常會

☆六月二十六日（水）午前十時より午後三時迄磐城貨物自動車株式會社臨時株主總會

☆六月二十八日（金）正午より五時迄東部石炭礦業會臨時總會

☆六月三十日（日）午後一時より五時迄平市第二十八區子供大會

以上何れも公會堂日本間に於て

展望

形式主義を打破せよ

▲ラバウルから一兵士が復員して來た。自動車運轉免許證を持つてゐたが渡河作戰中免許年月日が水の爲めに消えてしまつた。日付を忘れては困るので自分で書き入れて置いた。復員して平署へ行き事情を話すとそれは駄目だと云ふ。その免許證は警視廳の免許證だから警視廳へ行つてお前のものだと云ふ證明書を貰つて來れば認めてやると云はれた。今時わざ〳〵高い汽車賃をかけて東京迄行つて來なければ就職出來ないのか。その男の申立てに不審の點があつたならば警視廳に直接照會して疑問を質すのが警察の職務ではないか。警へ法規上はどうあらうとも現在の社會狀態上その位の親切心があつてもよいではないか

▲まだ有る。東京の或る人が豐間の或る漁業家にトラックを一臺讓つた。廢棄證明書は區長の證明書だ。それで惡いと警視廳のものを持つて來いと云はれ又、讓渡書を代書人に書いて貰つたら本人が書いたものでなければ駄目だと云はれた。少く共法に依つて許可されてゐる代書人の書いた書類を駄目だと云ふ話があるか。自動車免許證記載事項異動書には福島縣だの茨城縣だのと書かなくともいい事になつてゐる。茨城縣の自動車學校と云ふのは日本中に一つしかない學校だ。此んな判り切つた事に迄福島縣だの茨城縣だのと書き加へて、もう一度書き直して來いと云ふ

▲六日に警察懇談會が催されたがあれは一體何の爲に行はれたのか警察は我々人民の公僕だ。徹底的な民主化を行ひ親切心を持つやうに切に虐げられた民衆が代表して訴へるものである

（石城生活擁護同盟一委員）

貝殼追放

△生きる爲に食ふのか、食ふ爲に生きるのか。地球上に棲息する人間と云ふ高等動物？は生きてゐる事に間違ひはない。だから生きる爲に食ふのが本當の筈だ。食糧が無くなつて來た。既に食糧の遲配缺配は全國的な傾向になつて來てゐる。生きてゐる動物は高等であらうと下等であらうと生き續ける事に脅威を感ずると他の何ものよりも一秒でも長く生きようとして鬪える。弱肉强食、利己排他、斯くて全ての動物は食ふ爲に生きる樣になり果てる。万物の靈長とは良くも云つたものだ。此の五つの文字に人間の淺間しさが極彩色に浮彫りされてゐる。他の何ものよりも偉がらうとする。向上か？いや自己欺瞞的な獨善だ。正に現世は日本滅亡の一歩前だ。然し人々は覺醒しない。自分だけが――の世の中だ。結局全てが消滅してしまふだけなのに。末世だ。仕方がないと云へばそれまでだ

△偉がらうとしなければ、欺かうとしなければ、人の心は美しくなつて來る。人の心が美しいと云ふ事は皆んながハダカになる事だ

そして皆んなが全てを善意に解釋して生活して行く事だ

△田植時になれば田植屋の手傳ひにランサを押掛ける。食糧增産大いに結構。然し問題は手傳ひに行く人の心にある。眞實に手傳ひに行くのか。恐らく秋の收穫のお裾分けを取らぬ狸の皮算用と毛の生えた心臟の奥にニヤリと秘めてゐるに違ひない。是も仕方が無いと云はねばならぬ一つだらう。報酬を期待しての奉仕か……。斯んなのは勿論奉仕ではない。低劣極まりない田雇根性だ

△口を開けば何んだ彼んだと屁理窟を捏ね廻す。そんな輩には田の泥でも捏ねらせた方が餘程いゝ

△夏目漱石がチャーンと云つた「住み憎き人の世を作つたのは鬼でもなければ蛇でもない。矢張り向ふ三軒兩隣りにちら〳〵する唯の人である。唯の人が作つた人の世が住み憎ければ人でなしの國へ行くばかりだ。人でなしの國は人の世よりも尙住み憎からう」

△そして其處に詩が生まれて繪が出來るさうだ。衣食足りて禮節を知つてゐた明治時代はさうであつたらうが果して衣食足りすして禮節勿論知らざる昭和敗戰以後の時代は何が生まれるか？（中里）

◇縣下庭球選手權大會は十六日福島市で擧行されたが石城代表六組はスポーツ王國石城のために活躍準決勝以上を全部獲得し結局推薦で園部、篠原組が選手權を獲得した

◇濱通スポーツ聯盟第一回理事會は廿七日午前十一時より平市常陽銀行ホールで開催される

◇濱通スポーツ聯盟石城支部主催全磐城陸上競技選手權大會は九種目に亘つて廿三日磐女校庭で擧行される

◇濱通スポーツ聯盟石城支部の全石城庭球選手權大會は廿三日磐女コートで擧行される

◇福島市陸上競技聯盟と石城陸上競技聯盟との對抗試合は七月七日午前十時から磐女校庭で擧行されることになつたが種目は百、四百、八百、千五百、五千、走巾跳、走高跳、砲丸投及び八百繼走の九種目である

◇來る廿九、三十兩日福島市で擧行される毎日新聞主催の都市對抗野球大會縣豫選に石城を代表して出場する〝平クラブ〟は目下覇權を目指して磐中グランドで猛練習を行つてゐるがメンバーは左の如し

（督）井（監）
（投）坂（將）原（主）
柏原（委員）
石坂（委員）
大平
（捕）百澤（委員）
佐々木（委員）
渡邊
（一）河田
藤田
（二）柏原（遊）
（二）星野
（三）柳澤（委員）
（遊）上坂
（左）岡（委員）
田中
（中）吉田
若松
（右）阿部（委員）
新妻

文藝

N様へ

夏川純子

お手紙本日拜見致しました。お選り遊ばせ。御無事で何よりでした。お父様も、お母様もさぞお喜びの事と存じます。私も――お別れ致しましてから私は會社を辞めてこの村（筑波山麓にあります）へ移りました。それは空襲の烈しかつた十九年の秋でした村の多額納税者が工場を始めて日立航空機の下請をする様になつたものですからそこで働く様になりました。重い物一つ持つた事のない私に朝七時から夕方五時迄の立通しの作業はとてもつらう御座いました。勝つ爲にと組織の輝かしい勝利を夢みればこそ頑張りました。戰地においでになる貴方様に負けない様にと――。でも戰ひは負けでした。何の爲の努力でしたらう。私達の力がまだ足りなかつたのでせうか。終戰――いや敗戰です。私はひし〳〵と敗者の苦痛を味はひました。東京の家は焼かれ六畳の農家の離れを借りて居ります。電氣もありませんの、ですから夜は何にも出來ません。田舎なので雜誌も滿足に讀めません。それが何よりもつらう御座います

貴方は焦土と化した東京に再び歸つておいでになりましたのね。いかゞですか――。丸ノ内は殘つたとは云へ私達の居つたあのビルも最近進駐軍に接收されたと聞いて居ります。上野、淺草、新宿、新橋の闇市場は物凄い繁昌ださうですね

貴方は郷里を持たぬ東京ッ子。私は叔父の知人の許に身を寄せては居りますがいづれは東京に戻らねばなりません。貴方のお宅が偶然にも焼殘つた事は何よりの喜びで御座います。一日も早く再出發されます様に御祈り致して居ります。矣々もお身体御大切に

かしこ

詩

お嫁入

加藤志津子

それは雨の降る日
雨の中から生まれたやうな
悲しい貴女の
――お姉様――のお便りが
私の涙を雨に誘つた……
雨、本當にその日は夜中迄
雨の降つた悲しい日でした
お姉様……
そしてこれはあの意地悪の兄さまに言はせれば
〝他人〟（オヤ何と冷い言葉）……
なのでした
お嫁入り
お姉様は怖いでせう
恥づかしいでせう
でも貴女の胸は喜びに溢れてゐる
拗ねてやらうかしら
それとも
素直にお祝の手紙をやらうかしら

投稿歌迴

可紙上匿名

和歌

郷土の諸先輩に捧ぐるの歌

青山新太郎

高木稻水氏に

劍なす筆とりもちて世の禍を早くはらへと吾は祈るなり
古の荒びすさべる武將らも怖ぢ畏れたり春秋の筆
一管の筆に託さむまずらたがみくに思ひのそのひたどゝろ
渡邊何鳴先生に
聽診器もて君は何をか聽きたまふ
アヲヒルなりや古池の聲
くすり盛る醫師にはあらで天地のさびぞ君は盛るこれの發句に
國民叢に誰か人ある折笠の藤雄の君ぞ颯爽と立つ
大みたからおのが田のみは耕さず痩せたるこれの國原ぞ鋤く
柴田武雄先生に
草莽のかなしき想ひ君に見る常若くして愛やまざり
山とつむ憂抱きてわが大人は拓きつゝあり磐城國原
山部正勇先生に
皇神の國の正道まさやかに護りてゆきませこれの宮居に
高木誠一先生に
草かげのこれの藁屋ゆ新しきみ國學びは生れ出づるなり
和田文夫兄に
草かげに新しき國學興る時大和島根に眷かへらなむ
小林豊旗氏に
君がどと熱きこゝろにふるさとの村思ふ人世にあらめやも
思ふことい ふことすべてそが村にかゝはりて居る君めづらしき
大森勇先生に
さ輝く國ならなる貴ぞいつくしみ育てしこれの園丁はや（いちご會）
うら若き男の子乙女の中にある大人がこゝろは常若くして
亀山正邦兄に
からふみの千卷讀むとも日の本のまずらをこゝろ忘るゝなゆめ

乙女ごころ

船生紫石

吾も亦悩みたりけり彼の君とひとし想ひを胸に抱きて

俳句

燕の子

渡邊何鳴

燕の子あかときはやくめざめぬる
子燕の嘴の黄の仰がるゝ
ふるさとの藁家の簷の燕の子
沼なみのかゞよふ簷の燕の子
子燕の啼き酔まりし窓を閉づ

六大學野球リーグ戰序幕

外山士郎

若草や野球リーグ戰始まりぬ
六月の空や六大學野球戰
燕來て野球戰いよゝ始まりぬ
六月來野球日和となりにけり
六月の初めや野球リーグ戰
小夜ふけて君を想へば耳に入る歌
聲かなし愛の歌
寂しさに立ち出でみれば雨雲の同じく曇る吾が心かな
さよふけてもの想ひつゝ過ぐる時
今宵も君は如何におはすや
何時迄も忘れぬ様にと思ひ出の野邊に咲きしかわすれなのはな

權現塚だより（下）

高木稻水

權現塚は郷十六隣保七隣組に屬してゐる。世帯數が僅かに七戸、職業の種類は左官、土工、使丁、農業で、この中二戸は女世帯だ。所謂知識階級の人達がゐないから連帯たいふ人もなく組内は至つて親密であり、平和だ。昨年六月このささやかな隣組の組長を引受けたが、やつて見ると仕事は部落類はしい。市役所からの傳達もの、調査もの、配給物の指令がくる、しかもそれが明日迄といふのが今日來たりする時もある。それに醵出金、納税の積立金の徴收から赤十字の會費集め迄やらねばならぬ。用事が一度の訪問で済めば結構だが相手が留守で用を辯じない場合も時折出てくる。從つて市役所の關手としての隣組長の仕事は家内中の仕事になる。回覽板を持ち歩くのは大抵子供の役目だ。集金調査等には主婦があたる。當會は毎月やつてゐたが、集るのは女の人ばかり、半分は世間話だ。この世間話しは直接生活に關係のあることが中心になる。しかし最近はそれ〴〵に忙がしいのにと思つて催してゐない

靜かにここで好きな本でも讀んで見たいと思ふのだが、凡そそんな時間的餘裕はない。雜誌さへ滿足に讀めない。もつとも今時靜かに本を讀むことなどは量見違ひかも知れないが

第二國民學校がつい鼻の先だから二人の子供は大抵のお天氣でも傘なしですむ。婦女の講堂と新校舎の屋根が青葉の間から見え、サイレンも好く聞えてくるので時間がわかつて重寶だ

「權現塚だより」はいつの間にか自分の生活苦を書いてしまつたが現在のやうな世相では雜草のやうな逞ましい生活力を持たれば生き拔けぬ。徒らに時世を怨嗟し、罵倒して見ても一粒の米も一本の野菜も生れて來ない。古人曰く「國治まれば田で仕へ國亂るれば退いて耕す」と。成程うまいことをいつてゐる。現在は退いて耕すべき時代で出て仕へるべき時代ではなさそうだ。逞ましい生活力は讀書からは生れて來ない

ちよつとイッペイで
イッパイ！
おでん　一平
公會堂通り

星製藥株式會社
福島工場
平市五丁目二八
電話六六八三五三番

醫藥用、化學用其他硝子製品一切の製造
新星硝子工業株式會社
平市佃町
電話七一四番

株式會社ホシ藥舗
平市三丁目五
電話四二九番

カメラ買入ヤマ
カメラ高價
現像
焼付
引伸
平市三丁目
茂木カメラ店

平土地住宅
有限會社
正木昌次郎
電話二〇二番

釜屋商店
平市五丁目
電話九番九九番

電氣工事請負
電熱器の取付工事や其の他一切の
内線工事を〝早く〟〝安く〟
御引受け致します
どうぞ御下命の程を
平サービス商會
平市田町五十八　驛前通
電話六一一番

開業御挨拶
前略私儀今般復員後歸郷左記に於て診療に從事可致候に就き倍舊の御支援賜り度願上候　右不取敢以紙上而御挨拶迄如斯候　草々
昭和二十一年六月
平市鎌田町　金成醫院
外科專門　諸橋鐵彌
各位殿

佐藤幸太郎營業所
佐藤幸太郎
平事務所平市新田町二六
電話七一番　四五五番
東京事務所東京都芝區新橋
烏森ビル
電話（五七）四八三二番
小名濱出張所小名濱定西
電話一〇七番
工場電話（平）八三五　二七三　三五〇
二九二　三八九番

新鮮な御總菜！
榮養滿点のハム、ソーセージ！
小西食品店
平市銀座通り

ラジオ●電氣器具修理
月賦修理ニモ應ジマス
酒井無線電機商會
平市五丁目一三

内科小兒科
鈴木醫院
平市鍛冶町
電話四五二番

愈本格的な暑さが訪れ、惡い病氣の流行する梅雨時になつて來ました
皆様御健康に御注意下さいまして力一杯御働き下さる様御祈り申上げます
大和炭礦
鈴木傳明
平市公會堂前
電話六〇三番

講師　鈴木茂三郎氏
　　日野利春氏
社會主義經濟學講座
會費　拾圓
申込　六月二十九日迄
申込場所　平市仲町二十番地
日本社會黨常磐支部
電話一九三番
六月三十日―九月下旬迄
毎日曜日午前八時―十一時迄

汲めども盡きぬ智識の泉
新文化は新刊書より！
マルトモ書店
平市四丁目
電話二三四番